



表 題

CSP+コンフォーマンステスト仕様書

管理番号:BAP-C0401-042-A

改定履歴

改定項目	改定内容	改定日	副番
テスト項目追加	CC-Link IE Field および CC-Link IE Field Basic の CSP+コンフォーマンステスト仕様を追加。	2017.10	A

目次

概要	4
1. リモートI/O 局プロファイル記述(CSP+)確認	5
2. リモートデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認	9
3. インテリジェントデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認	14
4. ローカル局プロファイル記述(CSP+)確認	19
5. CC-Link IE Field リモートデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認	24
6. CC-Link IE Field リモートデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認	28
7. CC-Link IE Field ローカル局プロファイル記述(CSP+)確認	32
8. CC-Link IE Field Basic スレーブ局プロファイル記述(CSP+)確認	36

概要

本仕様書は、既に認定されている CC-Link/CC-Link IE 対応機器の CSP+ファイルの適合性(コンFORMANCE)テスト項目に関する仕様書である。新規製品の認定の場合は、対応する局種別のコンFORMANCEテストを適用する。

なお、本仕様書記載の試験を全て正常判定されることで CC-Link ユーティリティソフトウェアに使用可能な CSP+ファイルと判断する。

試験項目一覧

試験分類	試験項目	実施区分(○:実施)	
		メカ	協会
1. CC-Link リモート I/O 局 プロフィール記述(CSP+)確認	1-(1) 書式確認	○	—
	1-(2) 必須項目確認	○	—
	1-(3) 実機接続確認	○	—
2. CC-Link リモートデバイス局 プロフィール記述(CSP+)確認	2-(1) 書式確認	○	—
	2-(2) 必須項目確認	○	—
	2-(3) 実機接続確認	○	—
3. CC-Link インテリジェントデバイス局 プロフィール記述(CSP+)確認	3-(1) 書式確認	○	—
	3-(2) 必須項目確認	○	—
	3-(3) 実機接続確認	○	—
4. CC-Link ローカル局 プロフィール記述(CSP+)確認	4-(1) 書式確認	○	—
	4-(2) 必須項目確認	○	—
	4-(3) 実機接続確認	○	—
5. CC-Link IE Field リモートデバイス局 プロフィール記述(CSP+)確認	4-(1) 書式確認	○	—
	4-(2) 必須項目確認	○	—
	4-(3) 実機接続確認	○	—
6. CC-Link IE Field インテリジェントデバイス局 プロフィール記述(CSP+)確認	4-(1) 書式確認	○	—
	4-(2) 必須項目確認	○	—
	4-(3) 実機接続確認	○	—
7. CC-Link IE Field ローカル局 プロフィール記述(CSP+)確認	4-(1) 書式確認	○	—
	4-(2) 必須項目確認	○	—
	4-(3) 実機接続確認	○	—
8. CC-Link IE Field Basic スレーブ局 プロフィール記述(CSP+)確認	4-(1) 書式確認	○	—
	4-(2) 必須項目確認	○	—

対象機器情報

メーカは、試験結果提出時に、対象となる機器についての以下の情報を記載すること。

機器	本体	一般製品名			
		型式(形名)			
		バージョン	ハードウェア:	ソフトウェア:	他:
		局種別 (いずれかに○)	ローカル局 / インテリジェントデバイス局 / リモートデバイス局 / リモート I/O 局 / スレーブ局		
		機種タイプ	機種コード		
	I/F 部 【本体と異なる場合に記入】	品名			
	型式				
	バージョン	ハードウェア:	ソフトウェア:	他:	

作成支援ツール・エンジニアリングツールバージョン

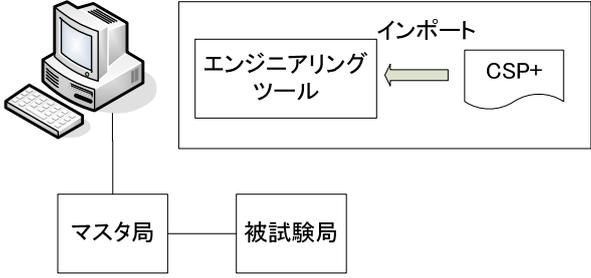
作成支援ツール	バージョン:			
エンジニアリングツール	メーカ:	製品名:	バージョン:	

1. リモート I/O 局プロファイル記述 (CSP+) 確認

試験分類	1. リモート I/O 局プロファイル記述 (CSP+) 確認	
試験項目	1-(1) 書式確認	
試験方法	<p>CSP+ファイルを CLPA 提供の CSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの書式を確認する。</p> 	
判定条件	CSP+作成支援ツールにインポートし、書式の確認をして、エラーが発生しないこと。	
結果	メーカー(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

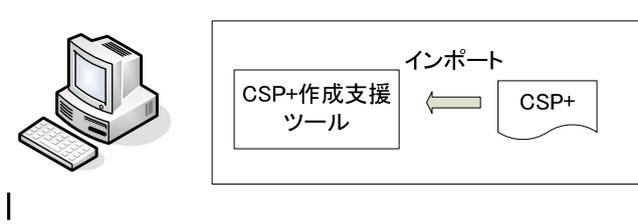
試験分類	1. リモートI/O局プロファイル記述(CSP+)確認				
試験項目	1-(2)必須項目確認				
試験方法	CSP+ファイルをCLPA提供のCSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの必須項目の記述内容をツール上で目視確認する。 メーカーは、確認した内容(項目の値、文字列)をCLPAに提出すること。				
判定条件	必須項目が正しく記述されていること。				
試験項目	セクション	要素名	確認内容	メーカー (内容記入)	CLPA (確認)
FILE	FILE	CreateDate	ファイル生成日が正しく記述されている。		
		CreateTime	ファイル生成時刻が正しく生成されている。		
		ModDate	最終更新日が正しく記述されている。		
		ModTime	最終更新時刻が正しく記述されている。		
		Language	言語情報が正しく記述されている。 (日本語の場合:"ja")		
		FileVersion	ファイルバージョンが正しく記述されている。		
		CCLinkFamilyProfileVersion	CSP+仕様バージョンが正しく記述されている。		
DEVICE	DEVICE	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
		VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。 (パートナー会員番号の5~8桁目)		
		DeviceModel	型名が正しく記述されている。		
		Version	機器バージョンが正しく記述されている。		
		VersionDisplayFlg	機器バージョンの表示/非表示が正しく設定されている。 (0:非表示,1:表示)		
DEVICE	DEVICE	VersionPolicyType	機器バージョンのポリシーが正しく設定されている。 (0:常に最新のCSP+ファイルを使用 1:実機と同じバージョンのCSP+ファイルを使用 2:実機のバージョン以前で最新のCSP+を使用)		

COMM_IF	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
	VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。 (パートナー会員番号の5~8桁目)		
	CommIFTypeID	通信インタフェース ID("CCLink")が正しく記述されている。		
	Version	ファームウェアのバージョンが正しく記述されている。		
	ReadVersionType	機器バージョンの取得方法が正しく記述されている。		
	StationType	局種別が正しく記述されている。 0:リモートI/O局		
	IOType	I/Oタイプが正しく記述されている。		
	DevModel	型名が正しく記述されている。		
	CcLinkVer	CC-Linkバージョンが正しく記述されている。		
	NumOccupiedStations	占有局数が正しく記述されている。		
CC-Link Partner Association				

試験分類	1. リモートI/O 局プロファイル記述(CSP+)確認	
試験項目	1-(3)実機接続確認	
試験方法	<p>エンジニアリングツールでマスタ局に接続し、被試験局に対し CSP+に記述した入力の読出し、出力の書き込みを確認する。</p> <p><u>試験構成</u></p>  <p style="text-align: center;">エンジニアリングツールの例:iQ Works、GX Works2^{注)}</p>	
	<p><u>試験手順</u></p> <p>上図の構成で、パソコン上で CSP+ファイルをエンジニアリングツールにインポートし、CSP+に記述した入力の読出し、出力の書き込みを確認する。</p> <p>ここでいう入力、および、出力はマスタ局側から見た入力および、出力を示す。すなわち</p> <p style="padding-left: 20px;">入力: COMM_IF_INPUT パートで記述されるもの</p> <p style="padding-left: 20px;">出力: COMM_IF_OUTPUT パートで記述されるものである。</p> <p>メーカーは、メーカーでの試験時に実施した確認の実施方法、結果、および判定基準を、CLPA に提出すること。また、メーカーでの試験時に使用したツールの製品名、および、バージョンを必ず記載すること。</p>	
	<p><u>入力の読出し確認</u></p> <p>実施条件: COMM_IF_INPUT パートを記述している場合には記述されている入力のうち最低1つは確認する。</p>	
	<p><u>実施方法</u></p>	
	<p><u>結果</u></p>	
	<p><u>判定基準</u></p>	
<p><u>出力への書き込み確認</u></p> <p>実施条件: COMM_IF_OUTPUT パートを記述している場合には記述されている出力のうち最低1つは確認する。</p>		
<p><u>実施方法</u></p>		
<p><u>結果</u></p>		
<p><u>判定基準</u></p>		
判定条件	正しく動作すること。エラーが発生しないこと。	
結果	メーカー(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

注): iQ Works、GX Works2 では、CSP+ファイルの圧縮ファイルをインポートできます。

2. リモートデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認

試験分類	2. リモートデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認	
試験項目	2-(1)書式確認	
試験方法	<p>CSP+ファイルを CLPA 提供の CSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの書式を確認する。</p>  <p>The diagram illustrates the process of importing a CSP+ file. On the left is a computer icon. To its right is a box labeled 'CSP+作成支援ツール' (CSP+ creation support tool). Further right is a box labeled 'CSP+'. A green arrow points from the 'CSP+' box to the 'CSP+作成支援ツール' box, with the word 'インポート' (Import) written above the arrow.</p>	
判定条件	CSP+作成支援ツールにインポートし、書式の確認をして、エラーが発生しないこと。	
結果	メーカ(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

試験分類	2. リモートデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認				
試験項目	2-(2)必須項目確認				
試験方法	CSP+ファイルを CLPA 提供の CSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの必須項目の記述内容をツール上で目視確認する。 メーカーは、確認した内容(項目の値、文字列)を CLPA に提出すること。				
判定条件	必須項目が正しく記述されていること。				
試験項目	セクション	要素名	確認内容	メーカー(内容記入)	CLPA (確認)
FILE	FILE	CreateDate	ファイル生成日が正しく記述されている。		
		CreateTime	ファイル生成時刻が正しく生成されている。		
		ModDate	最終更新日が正しく記述されている。		
		ModTime	最終更新時刻が正しく記述されている。		
		Language	言語情報が正しく記述されている。 (日本語の場合:"ja")		
		FileVersion	ファイルバージョンが正しく記述されている。		
		CCLinkFamilyProfileVersion	CSP+仕様バージョンが正しく記述されている。		
DEVICE	DEVICE	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
		VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。 (パートナー会員番号の5~8桁目)		
		DeviceModel	型名が正しく記述されている。		
		Version	機器バージョンが正しく記述されている。		
		VersionDisplayFlg	機器バージョンの表示/非表示が正しく設定されている。 (0:非表示、1:表示)		
DEVICE	DEVICE	VersionPolicyType	機器バージョンのポリシーが正しく設定されている。 (0:常に最新のCSP+ファイルを使用 1:実機と同じバージョンのCSP+ファイルを使用 2:実機のバージョン以前で最新のCSP+を使用)		

COMM_IF	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
	VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。 (パートナー会員番号の 5~8 桁目)		
	CommIFTypeID	通信インタフェース ID(“CCLink”)が正しく記述されている。		
	Version	ファームウェアのバージョンが正しく記述されている。		
	ReadVersionType	機器バージョンの取得方法が正しく記述されている。		
	StationType	局種別が正しく記述されている。 1: リモートデバイス局		
	IOType	I/O タイプが正しく記述されている。		
	DevModel	型名が正しく記述されている。		
	CcLinkVer	CC-Link バージョンが正しく記述されている。		
	NumOccupiedStations	占有局数が正しく記述されている。		
	ExtCycle	拡張サイクリック設定が正しく設定されている。 (CC-Link バージョンが 2.00 以上の場合のみ)		
CC-Link Partner Association				

試験分類	2. リモートデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認
試験項目	2-(3)実機接続確認
試験方法	<p>エンジニアリングツールでマスタ局に接続し、被試験局に対し CSP+に記述した入力、出力、パラメータの読出し、書き込み、コマンドの実行を確認する。</p> <p><u>試験構成</u></p> <p style="text-align: center;">エンジニアリングツールの例:iQ Works、GX Works2^{注)}</p> <p><u>試験手順</u></p> <p>上図の構成でパソコン上で CSP+ファイルをエンジニアリングツールにインポートし、CSP+に記述した入力、出力、パラメータの読出し、書き込み、および、コマンドの実行を確認する。</p> <p>ここでいう入力、および、出力はマスタ局側から見た入力および、出力を示す。すなわち</p> <p style="padding-left: 40px;">入力:COMM_IF_INPUT パートで記述されるもの</p> <p style="padding-left: 40px;">出力:COMM_IF_OUTPUT パートで記述されるものである。</p> <p>メーカーは、メーカーでの試験時に実施した確認の実施方法、結果、および判定基準を、CLPA に提出すること。また、メーカーでの試験時に使用したツールの製品名、および、バージョンを必ず記載すること。</p>
	<p><u>入力の読出し確認</u></p> <p>実施条件:COMM_IF_INPUT パートを記述している場合には記述されている入力のうち最低1つは確認する。</p>
	<p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>
	<p><u>出力への書き込み確認</u></p> <p>実施条件:COMM_IF_OUTPUT パートを記述している場合には記述されている出力のうち最低1つは確認する。</p>
<p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>	
試験方法	<p>パラメータの読出し、および、書き込みの確認</p> <p>実施条件:COMM_IF_PARAMETER パートを記述している場合には記述されているパラメータのうち、最低1つは確認する。</p>

	<u>実施方法</u>	
	<u>結果</u>	
	<u>判定基準</u>	
コマンド実行の確認 実施条件: COMM_IF_COMMAND パートを記述している場合には、記述されているコマンドのうち、最低1つは確認する。		
	<u>実施方法</u>	
	<u>結果</u>	
	<u>判定基準</u>	
判定条件	正しく動作すること。エラーが発生しないこと。	
結果	メーカー(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

3. インテリジェントデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認

試験分類	3. インテリジェントデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認	
試験項目	3-(1)書式確認	
試験方法	<p>CSP+ファイルを CLPA 提供の CSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの書式を確認する。</p>  <p>The diagram illustrates the process of importing a CSP+ file into a support tool. On the left is a computer icon. To its right is a box labeled 'CSP+作成支援ツール'. Further right is a box labeled 'CSP+' with a document icon. An arrow labeled 'インポート' points from the 'CSP+' box to the 'CSP+作成支援ツール' box.</p>	
判定条件	CSP+作成支援ツールにインポートし、書式の確認をして、エラーが発生しないこと。	
結果	メーカー(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

試験分類	3. インテリジェントデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認				
試験項目	3-(2)必須項目確認				
試験方法	CSP+ファイルを CLPA 提供の CSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの必須項目の記述内容をツール上で目視確認する。 メーカーは、確認した内容(項目の値、文字列)を CLPA に提出すること。				
判定条件	必須項目が正しく記述されていること。				
試験項目	セクション	要素名	確認内容	メーカー (内容記入)	CLPA (確認)
	FILE	CreateDate	ファイル生成日が正しく記述されている。		
		CreateTime	ファイル生成時刻が正しく生成されている。		
		ModDate	最終更新日が正しく記述されている。		
		ModTime	最終更新時刻が正しく記述されている。		
		Language	言語情報が正しく記述されている。 (日本語の場合: "ja")		
		FileVersion	ファイルバージョンが正しく記述されている。		
		CCLinkFamilyProfileVersion	CSP+仕様バージョンが正しく記述されている。		
	DEVICE	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
		VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。 (パートナー会員番号の 5~8 桁目)		
		DeviceModel	型名が正しく記述されている。		
		Version	機器バージョンが正しく記述されている。		
		VersionDisplayFlg	機器バージョンの表示/非表示が正しく設定されている。 (0: 非表示、1: 表示)		
	DEVICE	VersionPolicyType	機器バージョンのポリシーが正しく設定されている。 (0: 常に最新の CSP+ファイルを使用 1: 実機と同じバージョンの CSP+ファイルを使用 2: 実機のバージョン以前で最新の CSP+を使用)		

COMM_IF	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
	VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。 (パートナー会員番号の5~8桁目)		
	CommIFTypeID	通信インタフェース ID("CCLink")が正しく記述されている。		
	Version	ファームウェアのバージョンが正しく記述されている。		
	ReadVersionType	機器バージョンの取得方法が正しく記述されている。		
	StationType	局種別が正しく記述されている。 2: インテリジェントデバイス局/ローカル局		
	StationTypeDetail	局種別詳細が正しく記述されている。 0: インテリジェントデバイス局		
	IOType	I/O タイプが正しく記述されている。		
	DevModel	型名が正しく記述されている。		
	CcLinkVer	CC-Link バージョンが正しく記述されている。		
	NumOccupiedStations	占有局数が正しく記述されている。		
	ExtCycle	拡張サイクリック設定が正しく設定されている。 (CC-Link バージョンが 2.00 以上の場合のみ)		
CC-Link Partner Association				

試験分類	3. インテリジェントデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認
試験項目	3-(3)実機接続確認
	<p>エンジニアリングツールでマスタ局に接続し、被試験局に対し CSP+に記述した入力、出力、パラメータの読出し、書き込み、コマンドの実行を確認する。</p> <p><u>試験構成</u></p> <p style="text-align: center;">エンジニアリングツールの例:iQ Works、GX Works2^{注)}</p> <p><u>試験手順</u></p> <p>上図の構成でパソコン上で CSP+ファイルをエンジニアリングツールにインポートし、CSP+に記述した入力、出力、パラメータの読出し、書き込み、および、コマンドの実行を確認する。</p> <p>ここでいう入力、および、出力はマスタ局側から見た入力および、出力を示す。すなわち</p> <p style="padding-left: 40px;">入力: COMM_IF_INPUT パートで記述されるもの</p> <p style="padding-left: 40px;">出力: COMM_IF_OUTPUT パートで記述されるものである。</p> <p>メーカーは、メーカーでの試験時に実施した確認の実施方法、結果、および判定基準を、CLPA に提出すること。また、メーカーでの試験時に使用したツールの製品名、および、バージョンを必ず記載すること。</p>
試験方法	<p><u>入力の読出し確認</u></p> <p>実施条件: COMM_IF_INPUT パートを記述している場合には記述されている入力のうち最低1つは確認する。</p> <p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>
	<p><u>出力への書き込み確認</u></p> <p>実施条件: COMM_IF_OUTPUT パートを記述している場合には記述されている出力のうち最低1つは確認する。</p> <p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>

試験方法	パラメータの読出し、および、書込みの確認 実施条件: COMM_IF_PARAMETER パートを記述している場合には記述されているパラメータのうち、最低1つは確認する。	
	<u>実施方法</u>	
	<u>結果</u>	
	<u>判定基準</u>	
試験方法	コマンド実行の確認 実施条件: COMM_IF_COMMAND パートを記述している場合には、記述されているコマンドのうち、最低1つは確認する。	
	<u>実施方法</u>	
	<u>結果</u>	
	<u>判定基準</u>	
判定条件	正しく動作すること。エラーが発生しないこと。	
結果	メーカー(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

4. ローカル局プロファイル記述(CSP+)確認

試験分類	4. ローカル局プロファイル記述(CSP+)確認	
試験項目	4-(1)書式確認	
試験方法	<p>CSP+ファイルを CLPA 提供の CSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの書式を確認する。</p>  <p>The diagram illustrates the process of importing a CSP+ file into a support tool. On the left is a computer icon. To its right is a box labeled 'CSP+作成支援ツール' (CSP+ Creation Support Tool). Further right is a box labeled 'CSP+'. An arrow points from the 'CSP+' box to the 'CSP+作成支援ツール' box, with the word 'インポート' (Import) written above the arrow.</p>	
判定条件	CSP+作成支援ツールにインポートし、書式の確認をして、エラーが発生しないこと。	
結果	メーカー(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

試験分類	4. ローカル局プロファイル記述(CSP+)確認				
試験項目	4-(2)必須項目確認				
試験方法	CSP+ファイルを CLPA 提供の CSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの必須項目の記述内容をツール上で目視確認する。 メーカーは、確認した内容(項目の値、文字列)を CLPA に提出すること。				
判定条件	必須項目が正しく記述されていること。				
試験項目	セクション	要素名	確認内容	メーカー (内容記入)	CLPA (確認)
	FILE	CreateDate	ファイル生成日が正しく記述されている。		
		CreateTime	ファイル生成時刻が正しく生成されている。		
		ModDate	最終更新日が正しく記述されている。		
		ModTime	最終更新時刻が正しく記述されている。		
		Language	言語情報が正しく記述されている。 (日本語の場合:"ja")		
		FileVersion	ファイルバージョンが正しく記述されている。		
		CCLinkFamilyProfileVersion	CSP+仕様バージョンが正しく記述されている。		
	DEVICE	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
		VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。 (パートナー会員番号の5~8桁目)		
		DeviceModel	型名が正しく記述されている。		
		Version	機器バージョンが正しく記述されている。		
		VersionDisplayFlg	機器バージョンの表示/非表示が正しく設定されている。 (0:非表示、1:表示)		
	DEVICE	VersionPolicyType	機器バージョンのポリシーが正しく設定されている。 (0:常に最新のCSP+ファイルを使用 1:実機と同じバージョンのCSP+ファイルを使用 2:実機のバージョン以前で最新のCSP+を使用)		

COMM_IF	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
	VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。 (パートナー会員番号の 5~8 桁目)		
	CommIFTypeID	通信インタフェースID(“CCLink”)が正しく記述されている。		
	Version	ファームウェアのバージョンが正しく記述されている。		
	ReadVersionType	機器バージョンの取得方法が正しく記述されている。		
	StationType	局種別が正しく記述されている。 2: インテリジェントデバイス局/ローカル局		
	StationTypeDetail	局種別詳細が正しく記述されている。 1: ローカル局		
	IOType	I/O タイプが正しく記述されている。		
	DevModel	型名が正しく記述されている。		
	CcLinkVer	CC-Link バージョンが正しく記述されている。		
	NumOccupiedStations	占有局数が正しく記述されている。		
	ExtCycle	拡張サイクリック設定が正しく設定されている。 (CC-Link バージョンが 2.00 以上の場合のみ)		
CC-Link Partner Association				

試験分類	4. ローカル局プロファイル記述(CSP+)確認
試験項目	4-(3)実機接続確認
試験方法	<p>エンジニアリングツールでマスタ局に接続し、被試験局に対し CSP+に記述した入力、出力、パラメータの読出し、書き込み、コマンドの実行を確認する。</p> <p><u>試験構成</u></p> <p style="text-align: center;">エンジニアリングツールの例:iQ Works、GX Works2^{注)}</p> <p><u>試験手順</u></p> <p>上図の構成でパソコン上で CSP+ファイルをエンジニアリングツールにインポートし、CSP+に記述した入力、出力、パラメータの読出し、書き込み、および、コマンドの実行を確認する。</p> <p>ここでいう入力、および、出力はマスタ局側から見た入力および、出力を示す。すなわち</p> <p style="padding-left: 40px;">入力: COMM_IF_INPUT パートで記述されるもの</p> <p style="padding-left: 40px;">出力: COMM_IF_OUTPUT パートで記述されるもの</p> <p>である。</p> <p>メーカーは、メーカーでの試験時に実施した確認の実施方法、結果、および判定基準を、CLPA に提出すること。また、メーカーでの試験時に使用したツールの製品名、および、バージョンを必ず記載すること。</p>
	<p><u>入力の読出し確認</u></p> <p>実施条件: COMM_IF_INPUT パートを記述している場合には記述されている入力のうち最低1つは確認する。</p>
	<p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>
	<p><u>出力への書き込み確認</u></p> <p>実施条件: COMM_IF_OUTPUT パートを記述している場合には記述されている出力のうち最低1つは確認する。</p> <p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>
試験方法	<p><u>パラメータの読出し、および、書き込みの確認</u></p> <p>実施条件: COMM_IF_PARAMETER パートを記述している場合には記述されているパラメータのうち、最低1つは確認する。</p>

	<u>実施方法</u> <u>結果</u> <u>判定基準</u>	
	コマンド実行の確認 実施条件: COMM_IF_COMMAND パートを記述している場合には、記述されているコマンドのうち、最低1つは確認する。	
	<u>実施方法</u> <u>結果</u> <u>判定基準</u>	
判定条件	正しく動作すること。エラーが発生しないこと。	
結果	メーカー(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

5. CC-Link IE Field リモートデバイス局プロフィール記述(CSP+)確認

試験分類	5. CC-Link IE Field リモートデバイス局プロフィール記述(CSP+)確認	
試験項目	5-(1)書式確認	
試験方法	CSP+ファイルをCLPA提供のCSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの書式を確認する。	
判定条件	CSP+作成支援ツールにインポートし、書式の確認をして、エラーが発生しないこと。	
結果	メーカー(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

試験分類	5. CC-Link IE Field リモートデバイス局プロフィール記述(CSP+)確認					
試験項目	5-(2)必須項目確認					
試験方法	CSP+ファイルをCLPA提供のCSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの必須項目の記述内容をツール上で目視確認する。					
判定条件	必須項目が正しく記述されていること。					
備考	メーカーは、確認した内容(項目の値、文字列)をCLPAに提出すること。					
試験項目	セクション	要素名	確認内容	メーカー(内容記入)	CLPA	
	FILE	CreateDate	ファイル生成日が正しく記述されている。			
		CreateTime	ファイル生成時刻が正しく生成されている。			
		ModDate	最終更新日が正しく記述されている。			
		ModTime	最終更新時刻が正しく記述されている。			
		Language	言語情報が正しく記述されている。(日本語の場合:"ja")			
		FileVersion	ファイルバージョンが正しく記述されている。			
		CCLinkFamilyProfileVersion	CSP+仕様バージョンが正しく記述されている。			
	DEVICE	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。			
		VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。 (パートナー会員番号の5~8桁目)			
		DeviceModel	型名が正しく記述されている。			
		Version	機器バージョンが正しく記述されている。			
		VersionDisplayFlag	機器バージョンの表示/非表示が正しく設定されている。(0:非表示、1:表示)			

COMM_I F	VersionPolicyType	機器バージョンのポリシーが正しく設定されている。 0:常に最新のCSP+ファイルを使用 1:実機と同じバージョンのCSP+ファイルを使用 2:実機のバージョン以前で最新のCSP+を使用		
	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
	VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。(パートナー会員番号の5~8桁目)		
	CommIFTypeID	通信インタフェースID("CCLinkIEField")が正しく記述されている。		
	Version	ファームウェアのバージョンが正しく記述されている。		
	ReadVersionType	機器バージョンの取得方法が正しく記述されている。		
	nodeType	ノードタイプが正しく記述されている。 0x34:リモートデバイス局		
	IOType	I/Oタイプが正しく記述されている。		
	ModelCode	型名コードが正しく記述されている。		
	DevModel	モデル名(型名)が正しく記述されている。		
	RYSIZE	RYのサイズが正しく記述されている。		
	RWwSize	RWwのサイズが正しく記述されている。		
	RXSIZE	RXのサイズが正しく記述されている。		
	RWrSize	RWrのサイズが正しく記述されている。		
	Ports	ポートの数が正しく記述されている。		
	protocolVersion	プロトコルバージョンが正しく記述されている。		
	NodeNumberSetting	ノード番号設定機能の有無が正しく記述されている。 0:機能無 1:機能有		
TransientReception	トランジェント受信機能の有無が正しく記述されている。 0:機能無 1:機能有			
SLMPReception	SLMP受信機能の有無が正しく記述されている。 0:機能無 1:機能有			
結果	メーカー(必須)		CLPA(確認)	
CC-Link Partner Association				

試験分類	5. CC-Link IE Field リモートデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認	
試験項目	5-(3)実機接続確認	
試験方法	<p>エンジニアリングツールでマスタ局に接続し、被試験局に対し CSP+に記述した入力、出力、パラメータの読出し、書き込み、コマンドの実行を確認する。</p> <p>試験構成 エンジニアリングツールの例 : iQ Works、GX Works2 注)</p> <p>試験手順 上図の構成で、パソコン上で CSP+ファイルをエンジニアリングツールにインポートし、CSP+に記述した入力、出力、パラメータの読出し、書き込み、および、コマンドの実行を確認する。 ここでいう入力、および、出力はマスタ局側から見た入力および、出力を示す。すなわち 入力 : COMM_IF_INPUT パートで記述されるもの 出力 : COMM_IF_OUTPUT パートで記述されるものである。</p>	
	<p>入力の読出し確認 実施条件 : COMM_IF_INPUT パートを記述している場合には記述されている入力のうち最低1つは確認する。</p>	
	<p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>	
	<p>出力の書き込み確認 実施条件 : COMM_IF_OUTPUT パートを記述している場合には記述されている出力のうち最低1つは確認する。</p>	
	<p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>	
	<p>パラメータの読出し、および、書き込みの確認 実施条件 : COMM_IF_PARAMETER パートを記述している場合には記述されているパラメータのうち、最低1つは確認する。</p>	
	<p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>	
	<p>コマンド実行の確認 実施条件 : COMM_IF_COMMAND パートを記述している場合には、記述されているコマンドのうち、最低1つは確認する。</p>	

	<u>実施方法</u> <u>結果</u> <u>判定基準</u>	
判定条件	正しく動作すること。エラーが発生しないこと。	
備考	メーカーは、メーカーでの試験時に実施した確認の実施方法、結果、および判定基準を、CLPA に提出すること。また、メーカーでの試験時に使用したツールの製品名、および、バージョンを必ず記載すること。	
結果	メーカー(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

6. CC-Link IE Field リモートデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認

試験分類	6. CC-Link IE Field インテリジェントデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認	
試験項目	6-(1)書式確認	
試験方法	CSP+ファイルをCLPA提供のCSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの書式を確認する。	
判定条件	CSP+作成支援ツールにインポートし、書式の確認をして、エラーが発生しないこと。	
結果	メーカー(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

試験分類	6. CC-Link IE Field インテリジェントデバイス局プロファイル記述(CSP+)確認				
試験項目	6-(2)必須項目確認				
試験方法	CSP+ファイルをCLPA提供のCSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの必須項目の記述内容をツール上で目視確認する。				
判定条件	必須項目が正しく記述されていること。				
備考	メーカーは、確認した内容(項目の値、文字列)をCLPAに提出すること。				
試験項目	セクション	要素名	確認内容	メーカー(内容記入)	CLPA
	FILE	CreateDate	ファイル生成日が正しく記述されている。		
		CreateTime	ファイル生成時刻が正しく生成されている。		
		ModDate	最終更新日が正しく記述されている。		
		ModTime	最終更新時刻が正しく記述されている。		
		Language	言語情報が正しく記述されている。(日本語の場合:"ja")		
		CCLinkFamilyProfileVersion	CSP+仕様バージョンが正しく記述されている。		
		FileVersion	ファイルバージョンが正しく記述されている。		
	DEVICE	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
		VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。 (パートナー会員番号の5~8桁目)		
		DeviceModel	型名が正しく記述されている。		
		Version	機器バージョンが正しく記述されている。		
		VersionDisplayFlag	機器バージョンの表示/非表示が正しく設定されている。(0:非表示、1:表示)		

COMM_I F	VersionPolicyType	機器バージョンのポリシーが正しく設定されている。 0:常に最新のCSP+ファイルを使用 1:実機と同じバージョンのCSP+ファイルを使用 2:実機のバージョン以前で最新のCSP+を使用		
	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
	VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。(パートナー会員番号の5~8桁目)		
	CommIFTypeID	通信インタフェースID(“CCLinkIEField”)が正しく記述されている。		
	Version	ファームウェアのバージョンが正しく記述されている。		
	ReadVersionType	機器バージョンの取得方法が正しく記述されている。		
	nodeType	ノードタイプが正しく記述されている。 0x33:インテリジェントデバイス局		
	IOType	I/Oタイプが正しく記述されている。		
	ModelCode	型名コードが正しく記述されている。		
	DevModel	モデル名(型名)が正しく記述されている。		
	RYSIZE	RYのサイズが正しく記述されている。		
	RWwSize	RWwのサイズが正しく記述されている。		
	RXSIZE	RXのサイズが正しく記述されている。		
	RWrSize	RWrのサイズが正しく記述されている。		
	PortsprotocolVersion	プロトコルバージョンが正しく記述されている。		
	NodeNumberSetting	ノード番号設定機能の有無が正しく記述されている。 0:機能無 1:機能有		
	TransientReception	トランジェント受信機能の有無が正しく記述されている。 0:機能無 1:機能有		
SLMPReception	SLMP受信機能の有無が正しく記述されている。 0:機能無 1:機能有			
結果	メーカー(必須)		CLPA(確認)	
CC-Link Partner Association				

試験分類	6. CC-Link IE Field インテリジェントデバイス局プロファイル記述(GSP+)確認	
試験項目	6-(3)実機接続確認	
試験方法	<p>エンジニアリングツールでマスタ局に接続し、被試験局に対し GSP+に記述した入力、出力、パラメータの読出し、書き込み、コマンドの実行を確認する。</p> <p>試験構成 エンジニアリングツールの例 : iQ Works、GX Works2 注)</p> <p>試験手順 上図の構成で、パソコン上で GSP+ファイルをエンジニアリングツールにインポートし、GSP+に記述した入力、出力、パラメータの読出し、書き込み、および、コマンドの実行を確認する。 ここでいう入力、および、出力はマスタ局側から見た入力および、出力を示す。すなわち 入力 : COMM_IF_INPUT パートで記述されるもの 出力 : COMM_IF_OUTPUT パートで記述されるものである。</p>	
	<p>入力の読出し確認 実施条件 : COMM_IF_INPUT パートを記述している場合には記述されている入力のうち最低1つは確認する。</p>	
	<p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>	
	<p>出力の書き込み確認 実施条件 : COMM_IF_OUTPUT パートを記述している場合には記述されている出力のうち最低1つは確認する。</p> <p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>	
	<p>パラメータの読出し、および、書き込みの確認 実施条件 : COMM_IF_PARAMETER パートを記述している場合には記述されているパラメータのうち、最低1つは確認する。</p> <p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>	
	<p>コマンド実行の確認 実施条件 : COMM_IF_COMMAND パートを記述している場合には、記述されているコマンドのうち、最低1つは確認する。</p>	

	<u>実施方法</u> <u>結果</u> <u>判定基準</u>	
判定条件	正しく動作すること。エラーが発生しないこと。	
備考	メーカーは、メーカーでの試験時に実施した確認の実施方法、結果、および判定基準を、CLPA に提出すること。また、メーカーでの試験時に使用したツールの製品名、および、バージョンを必ず記載すること。	
結果	メーカー(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

7. CC-Link IE Field ローカル局プロフィール記述(CSP+)確認

試験分類	7. CC-Link IE Field ローカル局プロフィール記述(CSP+)確認	
試験項目	7-(1)書式確認	
試験方法	CSP+ファイルをCLPA提供のCSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの書式を確認する。	
判定条件	CSP+作成支援ツールにインポートし、書式の確認をして、エラーが発生しないこと。	
結果	メーカー(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

試験分類	7. CC-Link IE Field ローカル局プロフィール記述(CSP+)確認				
試験項目	7-(2)必須項目確認				
試験方法	CSP+ファイルをCLPA提供のCSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの必須項目の記述内容をツール上で目視確認する。				
判定条件	必須項目が正しく記述されていること。				
備考	メーカーは、確認した内容(項目の値、文字列)をCLPAに提出すること。				
試験項目	セクション	要素名	確認内容	メーカー(内容記入)	CLPA
FILE	FILE	CreateDate	ファイル生成日が正しく記述されている。		
		CreateTime	ファイル生成時刻が正しく生成されている。		
		ModDate	最終更新日が正しく記述されている。		
		ModTime	最終更新時刻が正しく記述されている。		
		Language	言語情報が正しく記述されている。(日本語の場合:"ja")		
		CCLinkFamilyProfileVersion	CSP+仕様バージョンが正しく記述されている。		
		FileVersion	ファイルバージョンが正しく記述されている。		
DEVICE	DEVICE	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
		VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。 (パートナー会員番号の5~8桁目)		
		DeviceModel	型名が正しく記述されている。		
		Version	機器バージョンが正しく記述されている。		
		VersionDisplayFlag	機器バージョンの表示/非表示が正しく設定されている。(0:非表示、1:表示)		

		VersionPolicyType	機器バージョンのポリシーが正しく設定されている。 0:常に最新のCSP+ファイルを使用 1:実機と同じバージョンのCSP+ファイルを使用 2:実機のバージョン以前で最新のCSP+を使用		
	COMM_I F	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
		VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。(パートナー会員番号の5~8桁目)		
		CommIFTypeID	通信インタフェースID("CCLinkIEField")が正しく記述されている。		
		Version	ファームウェアのバージョンが正しく記述されている。		
		ReadVersionType	機器バージョンの取得方法が正しく記述されている。		
		nodeType	ノードタイプが正しく記述されている。 0x32:ローカル局		
		IOType	I/Oタイプが正しく記述されている。		
		ModelCode	型名コードが正しく記述されている。		
		DevModel	モデル名(型名)が正しく記述されている。		
		RYSize	RYのサイズが正しく記述されている。		
		RWwSize	RWwのサイズが正しく記述されている。		
		RXSize	RXのサイズが正しく記述されている。		
		RWrSize	RWrのサイズが正しく記述されている。		
		PortsprotocolVersion	プロトコルバージョンが正しく記述されている。		
		NodeNumberSetting	ノード番号設定機能の有無が正しく記述されている。 0:機能無 1:機能有		
		TransientReception	トランジェント受信機能の有無が正しく記述されている。 0:機能無 1:機能有		
	SLMPReception	SLMP受信機能の有無が正しく記述されている。 0:機能無 1:機能有			
結果	メーカー(必須)		CLPA(確認)		
CC-Link Partner Association					

試験分類	7. CC-Link IE Field ローカル局プロファイル記述(CSP+)確認	
試験項目	7-(3)実機接続確認	
試験方法	<p>エンジニアリングツールでマスタ局に接続し、被試験局に対し CSP+に記述した入力、出力、パラメータの読出し、書き込み、コマンドの実行を確認する。</p> <p>試験構成 エンジニアリングツールの例 : iQ Works、GX Works2 注)</p> <p>試験手順 上図の構成で、パソコン上で CSP+ファイルをエンジニアリングツールにインポートし、CSP+に記述した入力、出力、パラメータの読出し、書き込み、および、コマンドの実行を確認する。 ここでいう入力、および、出力はマスタ局側から見た入力および、出力を示す。すなわち 入力 : COMM_IF_INPUT パートで記述されるもの 出力 : COMM_IF_OUTPUT パートで記述されるものである。</p>	
	<p>入力の読出し確認 実施条件 : COMM_IF_INPUT パートを記述している場合には記述されている入力のうち最低1つは確認する。</p>	
	<p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>	
	<p>出力の書き込み確認 実施条件 : COMM_IF_OUTPUT パートを記述している場合には記述されている出力のうち最低1つは確認する。</p>	
	<p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>	
	<p>パラメータの読出し、および、書き込みの確認 実施条件 : COMM_IF_PARAMETER パートを記述している場合には記述されているパラメータのうち、最低1つは確認する。</p>	
	<p><u>実施方法</u></p> <p><u>結果</u></p> <p><u>判定基準</u></p>	
	<p>コマンド実行の確認 実施条件 : COMM_IF_COMMAND パートを記述している場合には、記述されているコマンドのうち、最低1つは確認する。</p>	

	<u>実施方法</u> <u>結果</u> <u>判定基準</u>	
判定条件	正しく動作すること。エラーが発生しないこと。	
備考	メーカーは、メーカーでの試験時に実施した確認の実施方法、結果、および判定基準を、CLPA に提出すること。また、メーカーでの試験時に使用したツールの製品名、および、バージョンを必ず記載すること。	
結果	メーカー(必須)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

8. CC-Link IE Field Basic スレーブ局プロファイル記述(CSP+)確認

試験分類	8. CC-Link IE Field Basic 対応スレーブ局プロファイル記述(CSP+)確認	
試験項目	8-(1)書式確認	
試験方法	CSP+ファイルを CLPA 提供の CSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの書式を確認する。	
判定条件	CSP+作成支援ツールにインポートし、書式の確認をして、エラーが発生しないこと。	
備考		
結果	メーカー(実施)	CLPA(確認)
CC-Link Partner Association		

試験分類	8. CC-Link IE Field Basic 対応スレーブ局プロファイル記述(CSP+)確認				
試験項目	8-(2)必須項目確認				
試験方法	CSP+ファイルを CLPA 提供の CSP+作成支援ツールにインポートし、CSP+ファイルの必須項目の記述内容をツール上で目視確認する。				
	セクション	要素名	確認内容	メーカー(内容記入) CLPA	
	FILE	CreateDate	ファイル生成日が正しく記述されている。		
		CreateTime	ファイル生成時刻が正しく生成されている。		
		ModDate	最終更新日が正しく記述されている。		
		ModTime	最終更新時刻が正しく記述されている。		
		Language	言語情報が正しく記述されている。 (日本語の場合: "ja")		
		CCLinkFamilyProfileVersion	CSP+仕様バージョンが正しく記述されている。(バージョン2.1以降)		
		FileVersion	ファイルバージョンが正しく記述されている。		
	DEVICE	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
		VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。 (パートナー会員番号の5~8桁目)		
		DeviceModel	型名が正しく記述されている。		
		Version	機器バージョンが正しく記述されている。		
		VersionDisplayFlg	機器バージョンの表示/非表示が正しく設定されている。(0:非表示, 1:表示)		
		VersionPolicyType	機器バージョンのポリシーが正しく設定されている。 0:常に最新のCSP+ファイルを使用 1:実機と同じバージョンのCSP+ファイルを使用 2:実機のバージョン以前で最新のCSP+を使用		
	COMM_IF	VendorName	ベンダー名が正しく記述されている。		
		VendorCode	ベンダーコードが正しく記述されている。 (パートナー会員番号の5~8桁目)		
		CommIFTypeID	通信インタフェースID("Ethernet")が正しく記述されている。		
		Version	機器バージョンが正しく記述されている。		
		ReadVersionType	"MachineVersion"が正しく記述されている。		
		DevModel	型名が正しく記述されている。		
		NumOccupiedStations	占有局数が正しく記述されている。(1~64の整数)		
		EthernetCommFunction	CC-Link IE Field ネットワーク Basic 通信機能(bit1)が機能有(1)となっている。		
	判定条件	上記必須項目の値が正しく記述されていること。			
備考	メーカーは、確認した内容(項目の値, 文字列)をCLPAに提出すること。				
結果	メーカー(実施)		CLPA(確認)		
CC-Link Partner Association					